

《平成 29 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

1. 相談業務

(1)相談件数(H29.12.31 現在)

○実支援人数 761 人

○延支援件数 2,536 件

(2)相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動上のこと、学校や所属機関のこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 51.3%であり、成人期以前と以降の相談の割合が概ね半々である。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活上の困難さに対する具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。

30 代後半から 40 代で発達障害以外に精神疾患もあり、就労や福祉サービスの利用が難しい方も多く、親亡き後の生活をどうしたらいいかという相談も増えてきている。10 年以上の長期ひきこもりの方も多く、今後もそういった相談は増えていくと思われる。

18 歳未満の相談では、20%が乳幼児期、80%が学齢期以降の相談と、学齢期以降の相談の比率が高い。小学生が 38%、中学生が 18%、高校生年代が 21%で、いずれの年代からも同程度相談が寄せられている。

幼児期から小学校低学年ごろの相談では、身辺自立や対人関係、学習面の支援等、発達障害の特性から生じる問題に関する相談が多く、対応へのアドバイスが中心となっている。

高学年から中学生以降では、保護者から本人へと相談主体が移行していく時期でもあり、必要に応じて親子それぞれに相談時間を設ける形で対応している。不登校や非行、他の精神疾患等の二次障害の問題と関連して、家族間の強い葛藤が主題となることが多く、相談員が双方の調整役としての役割を担うことも多くなっている。

(3)相談支援・就労支援状況

就労準備(千葉障害者職業センターの職業相談・評価や発達障害者支援カリキュラム等の活用、他の就労支援機関の利用等)や就職活動(ハローワークや民間求人サイト等)、就労後の定着など、一人ひとりのニーズに即した支援を行っている。

2. 講師派遣

(1)外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育所(園)や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている。相談の内容としては、障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関するだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

巡回相談事業や子育てアシストなど、他の事業を利用した幼稚園・保育所(園)・認定こども園等からの依頼が増加している。保育者は気になっているが保護者にまだ伝えていない、また伝えたが相談・検査・診断に繋がっていない段階での、相談ニーズの高さが伺われる。

(2)子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

今年度は、保護者への質問票配布・返信を行う BASIC と、それらを行わず園内研修として行う LITE の 2 通りの実施方法を設け、実施回数も全 13 回と事業の拡充を図った。募集は幼稚園・保育所(園)・認定こども園を対象に、千葉県発達障害等に関する巡回相談事業および子育てアシスト事業説明会の実施、文書配布により行った。

【実施園】

- ・幼稚園 3 区(若葉、美浜、花見川)3 園
- ・保育園 5 区(花見川、美浜、緑、若葉、稲毛)8 園
- ・保育所 1 区(美浜)1 園
- ・認定こども園 1 区(美浜)1 園

【内 容】

- ・保護者への事前説明: 文書による趣旨説明 *
- ・保護者への事前調査: ご家庭で困っていること、気になることの確認 *
- ・集団場面での行動観察: 幼稚園での集団活動場面の様子を観察
- ・ミニ講座: 保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施 *
- ・職員と意見交換: 気になる子への対応方法などを協議
- ・保護者への報告: 各児への所見を支援センターで作成、園から報告 *
- ※LITE 実施園には意見交換の内容のまとめを作成し、園に送付
- ・保護者*、各園職員へアンケート

※ *のついている項目は BASIC のみ実施(ミニ講座は園が希望した場合のみ実施)

【協力関係機関】

- ・養護教育センター ・各区保健福祉センター ・千葉大学教育学部 ・千葉市桜木園
- ・千葉市療育センター療育相談所 / すぎのこルーム / 相談支援事業所ぱれっと
- ・千葉市大宮学園

【実施結果】

	形式	人数	障害の 診断あり※1	相談機関等 を勧める※2	対応方法 アドバイス※3
花見川区 A園	BASIC	7	0	4	7
美浜区 B園	LITE	25	2	4	11
緑区 C園	BASIC	7	0	3	7
若葉区 D園	LITE	22	0	2	13
稲毛区 E園	BASIC	10	0	4	10
美浜区 F園	LITE	23	2	0	11
若葉区 G園	LITE	9	0	1	9
緑区 H園	LITE	7	1	1	4
若葉区 I園	LITE	19	0	3	17
美浜区 J園	LITE	21	2	3	14
美浜区 K園	LITE	51	2	5	32
緑区 L園	LITE	13	1	0	10
花見川区 M園	LITE	27	1	2	15

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考察】

今年度は子育てアシスト BASIC・LITE の 2 つの実施方法を設け募集を行った。当初は各 6 園ずつの募集であったが、LITE での実施希望がかなり多く寄せられたため、最終的には BASIC3 園、LITE10 園の実施となった。

LITE 実施園からは、保護者の同意を得ることが難しいが、園は児への対応方法に困っている場合、LITE という選択肢があると実施がしやすいという声が多く聞かれた。また、今年度は子育てアシスト実施園(過年度実施園も含む)より、講師派遣等で引き続きの連携を望む声も多くあった。これらのことから、経過観察や定期的な対応方法への助言など、継続した間接支援へのニーズの高さが伺われた。実際に顔が見え、引き続いて話すことのできるつながりを形成していくことで、巡回相談事業の利用等、園側の相談から保護者主体の相談へと変わっていくケースも多く見受けられた。

(3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

日付	名称	人数	内容
平成29年 5月25日	独立行政法人高齢・ 障害・求職者雇用 支援機構 障害者 職業総合センター	10	場所:障害者職業総合センター 職業センター 内容:講義「発達障害について」 対象:発達障害者のワークシステム・サポートプログラム受講者 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 6月10日	学校法人敬心学園 臨床福祉専門学校 言語聴覚療法学科 授業	141	場所:臨床福祉専門学校 内容:科目「脳性麻痺・重複障害」(うち1コマ)「発達障害と精神障害、知的障害」 対象:言語聴覚療法学科2年生 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 6月15日	障害児保育研修	141	場所:千葉市役所 正庁 内容:「インクルーシブ保育における保育実践について」～気になる子への対応～ 対象:公立保育所、民間保育園、認可外保育園職員 講師:相談支援員 仲村美緒
平成29年 6月17日	NPO法人KHJ 千葉県なの会 定例会	80	場所:千葉市市民会館 3階特別会議室 内容:講演「大人の発達障害、高齢化の対応について」 対象:ひきこもりの子どもをもつ親の会会員 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 6月27日	千葉市こころの 健康センター 発達障害講演会	150	場所:千葉市こころの健康センター 内容:平成29年度 発達障害講演会 対象:市内在住・在勤・在学の方(関係機関職員研修との合同開催) 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 8月25日	千葉県警察学校 「発達障害者の 理解について」	31	場所:千葉県警察学校 内容:「発達障害者の理解について」 対象:交通任用科生 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 8月26日	千葉市発達障害者 支援センター主催 発達障害講座	231	場所:千葉市総合保健医療センター5階 大会議室 内容:「千葉市発達障害者支援センターにおける成人発達障害者の支援について」 対象:一般市民 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 9月15日	ペアレント トレーニング (基礎・演習)	25	場所:千葉市大宮学園 内容:「ペアレントトレーニング」(前編) 対象:大宮学園職員 講師:発達支援員 上田幸佳
平成29年 9月19日	ペアレント トレーニング (基礎・演習)	25	場所:千葉市大宮学園 内容:「ペアレントトレーニング」(後編) 対象:大宮学園職員 講師:発達支援員 上田幸佳
平成29年 10月2日	校内特別支援 研修会	25	場所:千葉市立生浜西小学校 内容:「気になる子への対応～学校生活でできること～」 対象:千葉市立生浜西小学校教員 講師:相談支援員 仲村美緒
平成29年 10月17日	千葉市教育研究会 特別支援教育部 Dブロック (発達障害)	20	場所:千葉市養護教育センター3階4研 内容:千葉市発達障害者支援センターの紹介 保護者対応と支援事例・中学卒業から就労に向けての具体的な支援 対象:小中学校教員 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 10月20日	独立行政法人高齢・ 障害・求職者雇用 支援機構 障害者 職業総合センター	10	場所:障害者職業総合センター 職業センター 内容:講義「発達障害について」 対象:発達障害者のワークシステム・サポートプログラム受講者 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 10月20日	平成29年度 稲毛区子育て支援 関係者会議	65	場所:稲毛保健福祉センター3階大会議室 内容:「発達が気になる子について」～地域での見守りを考える～ グループワーク発表への助言指導 対象:稲毛区内幼稚園・保育所(園)職員、子育て関係機関職員 主任児童委員、地域保健推進委員、健康課職員 講師:発達支援員 上田幸佳
平成29年 11月27日	中央区健康課 地域保健推進委員 会議	50	場所:中央保健福祉センター12階会議室 内容:「発達障害児の支援について」 対象:地域保健推進委員 講師:発達支援員 上田幸佳
平成29年 11月27日	平成29年度 ひきこもり 養成研修2日目	40	場所:千葉市こころの健康センター 多目的室 内容:研修2日目の講義及びグループワークファシリテーター 対象:ひきこもり支援に関心のある一般市民、各区民生員、児童委員、 社会福祉協議会職員、保健福祉センター職員 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 12月2日	植草学園大学× 短期大学公開講座 2017シンポジウム 「大人の発達障害者 の生活と就労支援」	100	場所:植草学園大学・短期大学 A棟3階 大講義室 内容:講座No.31「大人の発達障害者の生活と就労支援」～周りの配慮で自立を目指す～ 対象:学生、一般市民 講師:所長 加瀬幹生
平成29年 12月20日	千葉県警察学校 「発達障害者の 理解について」	31	場所:千葉県警察学校 内容:「発達障害者の理解について」 対象:交通任用科 生徒31人 講師:所長 加瀬幹生

3. 普及啓発・研修

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント・研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。

①主催講演会

日付	名称	実施形態	人数	内容
平成29年 8月26日	千葉市発達障害者 支援センター主催 平成29年度第1回 発達障害講座	講義中心	231	場所：千葉市総合保健医療センター5階 大会議室 内容：発達障害講座 「千葉市発達障害者支援センターにおける成人発達障害者の支援について」 講師：所長 加瀬幹生 「成人期における発達障害とその対応」 講師：千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学 松澤大輔氏

②地域住民等に対する普及啓発

日付	概略	内容
平成29年 4月1日	第9回世界自閉症啓発デーinちば ～みんな大切な仲間です～ 自閉症や発達障害に 関する普及啓発	内容：キャラバン隊(寸劇、疑似体験)や自閉症の方たちのミニコンサート等 作品展示、千葉県自閉症協会や各発達障害者支援センターの案内・パネル展示等 場所：千葉市中央区 きぼーる1階アトリウム
平成29年 4月10日	施設見学 (日本共産党 かばさわ洋平 市議会議員)	千葉市発達障害者支援センターの概要説明、今後の課題等
平成29年 7月25日	施設見学 (ふれあいの家実習生3名)	千葉市発達障害者支援センターの概要説明
平成29年 8月21日	施設見学 (みらい民進党 三井美和香 市議会議員)	千葉市発達障害者支援センターの概要説明、今後の課題等
平成29年 8月24日	施設見学 (新検見川メンタルクリニック 滝口氏 森氏)	千葉市発達障害者支援センターの概要説明 新検見川メンタルクリニック就労準備プログラムの説明
平成29年 12月25日	施設見学 (植草学園短期大学 植草学園大学)	参加学生：植草学園短期大学 8名 植草学園大学 17名 引率：佐藤慎二氏(植草学園短期大学) 広瀬由紀氏(植草学園大学) 内容：「気になる」子どもや障害のある子どもとその保護者の支援に際して、地域にどのような 支援機関があり、どのような連携が可能か。 千葉市療育センターの役割や保育現場との連携の実際を学びたい。 見学方法：講義形式 対象施設：療育相談所、やまびこルーム、すぎのこルーム、発達障害者支援センター

③関係施設・関係機関等の連携

日付	協議会名称	開催地	内容
平成29年 5月1日	特別支援連携会議 作業部会	千葉市 養護教育 センター	(1)特別支援連携会議設置要綱 (2)平成28年度第3回作業部会議事録報告 (3)平成28年度第2回特別支援連携会議議事録報告 (4)今後の方向性について(アセスメントシート・連携サポートリスト・相談のワンストップ化等)
平成29年 7月5日	平成29年度 第1回 精神・発達障害者 雇用支援連絡協議会	千葉障害者 職業センター	(1)あいさつ (2)千葉障害者職業センターにおける平成28年度精神・発達障害者の支援状況報告 (3)各委員の支援機関等での取り組みや課題 (4)意見交換 ○各関係機関の精神・発達障害者に対する支援の取り組み状況 ・雇用継続・職場定着の取り組みの実際 (工夫・対応に苦慮した例・他機関との役割分担等について)
平成29年 7月10日	第13回千葉市 地域自立支援協議会 全大会	千葉市総合 保健医療 センター	(1)平成28年度相談支援事業実績報告 (2)平成28年度千葉市地域自立支援協議会活動報告 (3)千葉市における障害福祉の課題に関する検討会からの提言 (4)相談支援事業所意見交換会の設置 (5)地域生活支援拠点等事業の実施 (6)その他
平成29年 7月31日	特別支援連携会議 作業部会	千葉市 養護教育 センター	(1)研修：淑徳大学准教授 松浦俊弥先生 (2)平成29年度第1回特別支援連携会議議事録報告 (3)連携サポートリスト (4)幼・保支援計画 (5)総合案内パンフレット
平成29年 8月1日	子育て支援 ネットワーク会議	中央 コミュニティ センター	(1)母子健康包括支援センター及び産後ケア事業について (2)グループワーク (3)関係機関との連携に関する発表 (4)幼保支援課より連絡事項
平成29年 8月25日	平成29年度 千葉市 子ども・若者 支援協議会 第1回実務者会議	ちば仕事 プラザ	(1)構成機関(ちば地域若者サポートステーション)における相談支援状況の事例発表等 ・施設紹介、事例発表、質疑応答 (2)千葉市子ども・若者総合相談センターLinkの相談状況について (3)千葉市ひきこもり対策事業について (4)各機関における支援状況・課題等について
平成29年 12月4日	特別支援連携会議 作業部会	千葉市 養護教育 センター	(1)第2回作業部会議事録報告 (2)連携サポートリスト (3)幼・保支援計画 (4)協議：総合案内パンフレット (5)ケース会議

4. サロン「しえるろっく」

対象は、発達障害の診断を受けていて、診断名を告知されている18歳以上(高校生を除く)の方である。コミュニケーションゲーム等の活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。本年度は参加者がこれまでとは大きく変わったことが特徴としてあげられる。前年度までの参加者の多くが就職等で次のステージに進み、初めてや数年ぶりの参加といった傾向が見られた。参加人数は毎回5名程度。全8回を予定しており、1月末で6回終了している。

5.ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。

○プログラム

【参加者】

・ADHDと診断された子どもの保護者4名(幼稚園児1名、小学生3名)

【内 容】

セッション1	オリエンテーション 子どもの行動を3種類に分けてみよう
セッション2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組合せー
セッション4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション7	制限を設けるー警告とペナルティーの与え方ー
セッション8	これまでのふりかえり

【考 察】

今年度は参加者が4名と少なく、グループとしての活発な意見交換等は見られなかったが、参加者1人1人に丁寧に関わることができた。終了後の感想では「些細なことで怒っていたのだとわかった。これからはもっとほめていこうと思う。」「ガミガミ言っても伝わらないとわかった。指示の仕方を考えてやっていきたい。」など肯定的な意見が多かった。

自閉症スペクトラムと診断された子どもの保護者から参加できないかという問い合わせもあり、参加者の幅を広げていくことも検討していく必要があると思われる。

○リーダー養成研修

【参加者】

- ・基礎研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 23 名
- ・実務研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 4 名

【内 容】

- ・基礎研修 講義形式で各セッションの概略を説明
- ・実務研修 実際のセッション全 8 回を見学、その後に内容を説明

【考 察】

「毎回の研修参加後に事業所職員に内容の報告を行っている」、「まずは事業所の職員を対象に実施したい」という意見もあり、保護者を対象としたペアレント・トレーニングの普及は難しいものの、施設職員のスキルアップにはつながるという効果が期待できる。

参加事業所が保護者を対象としたペアレント・トレーニングを実施する際には支援センター職員がサブリーダー等でバックアップするシステムも考えていきたい。